

芸工 インターナショナル オフィス

令和5年度活動報告

2024.3.22



Faculty of Design
Graduate School of Design, School of Design
Kyushu University



International Office
Faculty of Design

目次

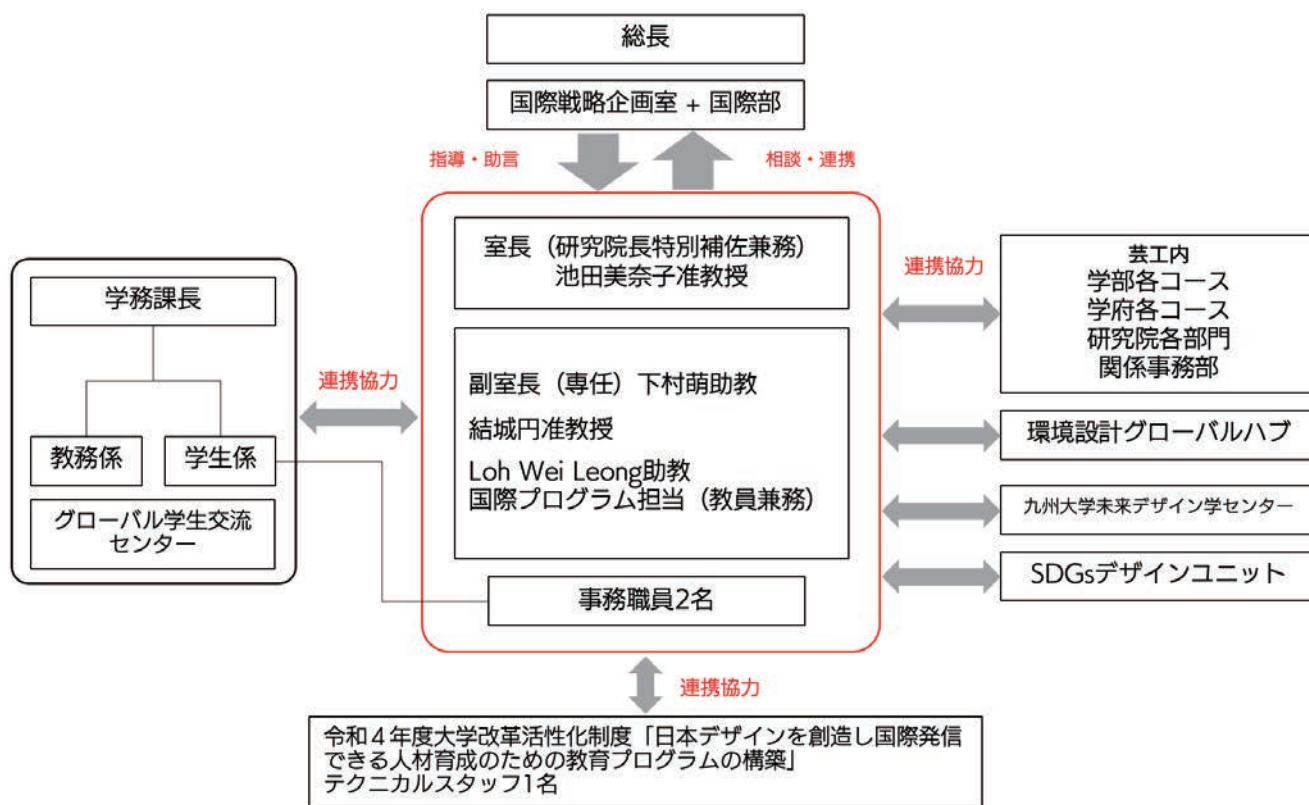
組織図

芸工インターナショナルオフィス 概要

はじめに

- 1 芸術工学インターナショナル・ウインタースクール
- 2 国際プログラム・海外留学
 - 2.1 国際プログラム（派遣）
 - 2.2 学生サポート
 - 2.3 交換留学実績（派遣）
- 3 留学生サポート
 - 3.1 留学生アンケートとインタビュー調査
 - 3.2 芸工サポーター運営、国際交流イベント実施
 - 3.3 留学生と日本人学生の交流会
 - 3.4 留学生自主企画支援
 - 3.5 同窓留学生のネットワーク構築
- 4 国際化への取り組み: 大学改革活性化制度「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講
 - 4.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要
 - 4.2 デザインと日本/日本デザインの理解A（2023年度前期）
 - 4.3 デザインと日本/日本デザインの理解B（2023年冬学期）
 - 4.4 デザインと日本/日本デザインの理解C（2023年秋学期）
 - 4.5 レクチャー・シリーズとイベント
- 5 国際教育イニシアティブ
 - 5.1 産学連携国際演習科目: スタジオプロジェクトII-A (SORA コミュニティ デザイン プロジェクト)
 - 5.2 国際演習科目: スタジオプロジェクトIII-A (Inter-Cultural Dialogue 2023)
 - 5.3 Collaborative Online International Learning (COIL): INTAC (International Art Collaborations Network)
 - 5.4 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One
- 6 海外パートナーの開拓
 - 6.1 ダブル・ディグリープログラム締結
 - 6.2 海外大学関係者の表敬訪問対応
 - 6.3 海外大学への訪問
 - 6.4 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート
- 7 国際広報活動の充実
 - 7.1 国際広報
 - 7.2 部局活動の海外発信
 - 7.3 留学生リクルート
- 8 国際連携プロジェクト支援
 - 8.1 国際連携教育支援事業
 - 8.2 その他サポート
- 9 様式の英語化
- 10 各種予算申請
- 11 その他の活動

組織図



芸工インターナショナルオフィス 概要

九州大学は世界に開かれた大学として国際感覚豊かな人材の育成を目指している。その中で芸術工学研究院は、研究・教育の両面で積極的な国際交流活動に取り組んでいる。芸術工学研究院が目指す国際化構想を実現するために国際関係事業の企画・立案などを行う組織として、2020（令和2）年度に芸工インターナショナルオフィスが設置された。

芸工インターナショナルオフィスの主な役割は、部局内の研究活動や教育を海外に精力的に発信するとともに、海外協定校の開拓、国際プログラムの設置・運営、海外大学との共同研究教育を支援することである。従来から行ってきた外国人研究者・留学生受入れや海外派遣をより積極的に支援するとともに、生活面の充実にも力を入れ、大橋キャンパス内では、各国の留学生と部局の教職員および学生との交流活動も活発に行われている。

はじめに

コロナウィルスの世界的大流行から平常を取り戻した2023年度は、芸術工学研究院（以下芸工）にとって実り多き年となった。芸工インターナショナルオフィスは（1）国際パートナーの開拓、（2）国際化プログラムの開発と運営、（3）国際化の環境整備、（4）国際向け情報発信のクオリティコントロール、（5）国際関連予算確保の項目で部局の国際化を支援することができた。

芸工への交換留学生や、国際プログラムの学生を含め海外に留学する学生も増えている。特に学部生には、日本人・留学生を問わず英語による授業科目を提供し、サポートしてきた。多くの学生が「デザインと日本」科目シリーズ、Inter-Cultural DialogueやSORA水素バスプロジェクトなどのスタジオプロジェクト、国際プログラム必修科目などを履修した。

今年度は、第2回目となる芸術工学インターナショナル・ウインタースクールプログラムを成功裏に開催することができた。この短期プログラムは、海外からの教員や学生を招聘するもので、留学生の獲得や広報のための重要な戦略となっている。このプログラムでは、本学の博士課程学生が来場者から建設的なフィードバックを得て、海外の研究者と交流する為に自分の研究を発表する、第1回博士コロキウムも実施した。また、留学生獲得のためのアウトリーチ活動を補完するために、自分たちの経験や芸工での出来事について書き、それを共有する学生ライターのグループを育成した。これらの記事は芸術工学部公式ウェブサイト、Geiko Globalウェブサイトに掲載されている。

国際交流の面では、多くの海外からの訪問者を受け入れ、ヨーロッパの多くの大学を訪問し、海外の大学と学生交流や研究協力に関する多くの協定を締結した。特に、2024年3月には国立成功大学と初のダブルディグリープログラムの締結を果たすことができた。

来年度は、これまでに構築した仕組みやサービスが持続的に機能するよう運用しながら改善し、国際的な環境の中で学生や教職員が楽しく活動できるよう支援することを目指す。

本報告書は、2023（令和5）年度の芸工インターナショナルオフィスの活動を総括し、部局の国際化のさらなる強化に寄与することを目的として作成したものである。また、日頃より芸工インターナショナルオフィスへのご理解、ご支援を頂いている皆様に対し、ここに感謝の意を表す。

1 芸術工学インターナショナル・ウィンタースクール

海外の学生と教員の短期受入れプログラム

目的

1. 博士課程や修士課程への進学を考えている海外のデザイン系教員や学生に芸工の知識や研究体験を提供する。
2. 教員、芸工生、事務職員が海外の教員や学生と英語でコミュニケーションすることでより多くの英語に触れる機会を提供する。
3. 芸工生が海外の教員や学生に芸術工学府の学びや福岡での生活を共有し国際交流を促進する。

活動概要

芸術工学インターナショナル・ウィンタースクールでは、九州大学大学院芸術工学府が提携している海外大学から7名の教員と9名の学生(学部生・大学院生)を招聘し、到着・出発日を含めた7日間(JST・九州大学)、到着・出発日を除く8日間(JASSO)の研修プログラムを大橋キャンパスにて実施した。プログラム内容は(1)芸術工学府博士課程学生の研究発表、(2)配属研究室での研究指導ラボセッション、(3)芸工祭の見学、(4)企業訪問(TOTO株式会社)、(5)唐津での文化体験ツアー(JASSO招聘者及び自費参加者のみ)であった。

本学参加教員と学生サポーターの尽力により本プログラムは参加者に包括的なプログラムと多くの経験を提供することができた。参加者は皆、日本での学習とホスピタリティに満足した様子であった。こうした国際的プログラムを継続的に実施することで、世界における芸術工学府の存在を高め、優秀な留学生の獲得に繋げたい。

活動概要

2023年11月5日～12日

参加教員

ストラテジックデザイン部門	教授	Sarantou Melanie
未来共生デザイン部門	准教授	池田 美奈子
未来共生デザイン部門	准教授	結城 円
未来共生デザイン部門	助教	Loh Wei Leong
環境設計部門	准教授	井上 朝雄
環境設計部門	助教	岩元 真明
人間生活デザイン部門	准教授	松前 あかね
人間生活デザイン部門	講師	西村 貴孝
人間生活デザイン部門	助教	Loh Ping Yeap

使用言語

英語



KYUSHU UNIVERSITY
ENVISIONING THE
FUTURE OF DESIGN



▲ 記録動画



▲ 開催レポート

参加者

16名11大学

(バンドン工科大学、ジャダフプール大学、国立台湾師範大学、国立台北大学、ランシット大学、カンボジア王立芸術大学、セベラスマレット大学、シラパコーン大学、ケルン大学、ラップランド大学、フィリピン大学ロス・バノス校)

参加国

8か国及び地域 (カンボジア、フィンランド、ドイツ、インドネシア、インド、フィリピン、台湾、タイ)

資金助成

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)

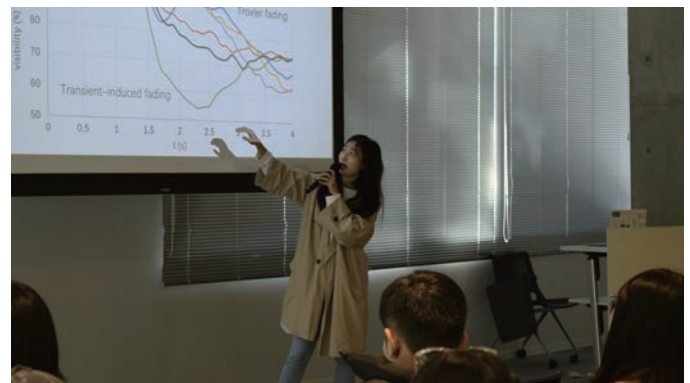
九州大学

プログラム内容

- ・ 指導教員の研究を深く理解するためのラボセッション (2日間)
- ・ 先進的で多様な研究施設を巡るキャンパスツアー
- ・ 博士課程学生研究発表会
- ・ TOTO株式会社への企業訪問
- ・ 唐津市での文化体験ツアー
- ・ 芸工祭見学
- ・ 参加者による2つのプレゼンテーション (自己紹介、最終成果発表)



▲ Loh Ping Yeap 助教とのラボセッション



▲ 博士課程学生研究発表会



▲ TOTO株式会社訪問



▲ 芸工祭

2 国際プログラム・海外留学

2.1 国際プログラム (派遣)

2021年度から開始した芸術工学部2年生対象の留学を促進する教育プログラム

目的

国際社会において主体的に活動するために必要な姿勢、態度、コミュニケーション能力を身につけ、かつ専門的なデザインの知識・能力と自国についてのアイデンティティをもった人材を育成することを目的とする。

プログラム修了の要件

国際プログラム登録後、次の3つの条件を満たす学生に対してプログラム修了証を交付する。

1. 次の4科目の単位を修得していること:
Intellectual Property Rights: Global Perspective (学部2年夏学期)
Global Design Innovation (学部2年夏学期)
Design Pitching Skills (学部2年秋学期)
Start-ups and Global Disruptors (学部2年冬学期)
2. 留学 (短期留学を含む) により、語学以外の科目で4単位以上を取得していること
3. 学部の卒業要件を満たしていること

担当教員

助教 Loh Wei Leong
准教授 Hall Michael
助教 稲村 徳州
准教授 池田 美奈子
助教 下村 萌

参加人数 (学部2年生)

10名

国際プログラムの広報と情報共有

- ・ 説明会: 学部1年生向け (2023年4月7日)、学部2年生向け (2023年4月6日)
- ・ 留学を修了した国際プログラムの参加学生2名が、学部1年生が履修する Design Case Studiesの授業で自分たちの経験を共有した。



▲ 国際プログラム詳細



▲ Global Design Innovation



▲ Design Pitching Skills



▲ 12月開催のお茶会

履修生留学のための取組み

- TOEFL、IELTS等外国語試験（リスニング・スピーキング）対策とポートフォリオ作成支援
- テキストの貸与と留学生チューターとのマンツーマンでの英語レッスン（実施回数延べ25回）
- 外国語試験検定料（TOEFL、IELTS等）一部助成 7名
- 英語でのコミュニケーションに慣れるために、ミーティングやグループワークは全て英語で行い、学生たちは自信をもって積極的なコミュニケーションができるようになった。

留学へのモチベーション向上のための取組み

- 台湾にある国立台湾師範大学（NTNU）技術工学院との共同ワークショップを2024年3月4日から10日の間で実施。学生に海外経験と教育的また文化的な交流の機会を与える為、台湾師範大学での開催となった。国際プログラム学生9名と3名の教員がワークショップに参加した。
- 履修生と教員が留学や異文化理解、進路などについて語り合うお茶会を設け、気軽に英語で交流しながら国際理解を深めた。
- Loh Wei Leong助教とグローバル学生交流センタースタッフが履修生と個別面談を行い、交換留学の計画について個別にアドバイスをし、留学希望先に提出する志望理由書やポートフォリオなどの指導を行った。



▲ 国立台湾師範大学



▲ 台湾師範大学とのワークショップでのプレゼンテーション



▲ 民安小学校訪問



▲ 台湾のローカルフードを一緒に楽しむ様子

助成資金

- 外国語試験対策・ポートフォリオ作成指導: SHARE-Q
- 外国語試験検定料一部助成: 教育のグローバル化推進経費
- 国立台湾師範大学との共同ワークショップ: 国際連携教育支援事業 (学生)、SHARE-Q (教員)
- 海外での留学生活費等: JASSO海外留学支援制度「世界的デザイン系人材を育成する芸術工学部国際プログラム (派遣)」

実績

第1期生 (学部4年生): 南洋理工大学へ1名 (JASSO海外留学支援制度)、ミラノ工科大学へ1名 (JASSO海外留学支援制度)、ケルン応用科学大学へ2名が留学した。このうちの3名には卒業時に修了証が交付される。(2024年3月:2名、2024年秋予定:1名)

第2期生 (学部3年生): アムステルダム応用科学大学へ1名 (JASSO海外留学支援制度)、国立成功大学へ1名 (JASSO海外留学支援制度) が留学した。その他、カールスルーエ工造形大学へ1名 (トビタテ!留学JAPAN新・日本代表プログラム)、サンノゼ州立大学へ1名が現在留学中であり、さらに2024年春から1名がウィーン大学へ留学予定である。

第3期生 (学部2年生): 現在、留学準備段階である。



▲ 国際プログラム第1期生



▲ 留学生チューターとの英語レッスン



▲ 南洋理工大学への交換留学



▲ ケルン応用科学大学への交換留学

2.2 学生サポート

交換留学を希望する学生へのサポート

- 交換留学（派遣）相談件数: 27件
- 芸術工学部局海外留学説明会（9月13日、オンライン）を開催した。提携校の主担当教員による説明および質疑応答のセッションを設けた。参加人数15名
- 「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の説明会と面接指導を実施した。

2.3 交換留学実績（派遣）

大学名	国・地域名	人数	所属コース名
ミラノ工科大学	イタリア	2	人間生活デザイン (M1) 環境設計 (M2)
パリ・ラ・ヴィレット建築大学	フランス	2	環境設計 (M1)
ダルムシュタット科学技術大学	ドイツ	1	未来共生デザイン (M1)
ケルン応用科学大学	ドイツ	1	メディアデザイン (M2)
カールスルーエ造形大学	ドイツ	2	音響設計 (B3) 音響設計 (M2)
国立成功大学	台湾	1	環境設計 (B3)
サンノゼ州立大学	アメリカ	1	メディアデザイン (B3)
アールト大学	フィンランド	1	芸術工学専攻 (D1)
ウィーン大学	オーストリア	1	メディアデザイン (B3)

3 留学生サポート

3.1 留学生アンケートとインタビュー調査

目的

留学生が学内や日本の生活で直面する問題を把握し、改善策を検討・実施するとともに、今後の留学生サポートの充実を図ることを目的とする。

方法

2023年6月に芸工部局の留学生121名（交換留学生を含む）を対象に、オンラインアンケート調査を実施した。

結果

留学生38名から回答があり、住居探しと英語での授業が不足しているという2つの課題があげられた。英語での授業が不足しているという問題を表面化させた学生は多くはなかったが、スタッフとの何気ない会話の中でこの問題を口にした学生は多い。そこで、この問題をより深く理解するためにインタビュー調査を実施した。

インタビュー参加者

2022年4月以降に修士課程に入学した留学生で、英語による入学試験を受けた者。参加した学生の多くは日本語を話さないと見込まれる。

方法

参加者9名に対し、2～5名の少人数グループインタビューを実施した。

結果

面談で把握した主な課題など調査結果は拡大教授会で発表した。

3.2 芸工サポーター運営、国際交流イベント実施

概要

芸工サポーターは、芸工生のキャンパスライフをより良くしたいと願う日本人と留学生の芸術工学部局の学生チームである。彼らは新規来日留学生がスムーズに馴染めるようにサポートし、留学生と日本人との新しい友情を育むためにさまざまなイベントを企画した。また、地域貢献の一環として、芸工祭期間中に一般向けのワークショップを開催し、多くの方から好評を得た。

サポーター人数

29名（うち留学生10名）

実績

- ・ 新規来日留学生の来日時の諸手続きサポート
前期：留学生20名、教員1名／サポーター延べ9名
後期：留学生30名／サポーター延べ5名
- ・ 国際交流イベントの開催

活動名	開催日	参加人数
歓迎会（春）	2023年5月12日	42
バーベキュー（海の中道）	2023年7月23日	16
歓迎会（秋）	2023年10月13日	50
ワークショップ（芸工祭）	2023年11月5日	47
説明会（家探し）	2023年11月17日	30
クリスマスパーティー	2023年12月22日	20
豆まきイベント	2024年2月2日	11



▲ 歓迎会



▲ BBQ



▲ クリスマスパティー

3.3 留学生と日本人学生の交流会

目的

- ・ 留学生に日本人学生と交流し、友情を育む機会を提供する。
- ・ 芸工インターナショナルオフィスが学生と親交を深め、彼らの悩み事を理解する。

結果

授業後の時間帯に、ゲームなどを通して学生たちがお互いに知り合えるような、気軽なティーパーティーを2回開催した。

日付	留学生数	日本人学生数	合計
2023年10月25日	5	3	8
2023年11月28日	10	2	12



▲ 交流会

3.4 留学生自主企画支援

目的

日本人と留学生の交流を促進し、自主性を持って芸工に貢献できる人材を育成する。

プロジェクト構想

有志留学生が、芸工生同士の交流を促す会話の場としてイベント時に飲み物や食べ物を提供できる移動式屋台を作る自主プロジェクトを立ち上げた。彼らは、留学生と日本人学生からなるチームを編成し、皆で協力して屋台を作ることに成功した。

実績

屋台は2023年11月に完成し、2023年末に幾度かイベントへの参加を試みたが、いずれも悪天候により実現しなかった。学生たちは2024年度に新たなイベントを企画している。



▲ 学生がデザイン・制作した屋台

3.5 同窓留学生のネットワーク構築

目的

芸工同窓留学生の有意義な相互ネットワークを構築し、後世に向けて世界各地で芸工のプレゼンスを高める同窓留学生支援を提供する。

取組み

- 同窓留学生へニュースレターや年間報告書等を添えた定期的な電子メールの送付
- 年間行事としてGeiko International Reunionの運営

Geiko International Reunion

目的

- 同窓留学生間のネットワークを構築する機会を提供する。
- 同窓留学生が働く海外大学との交換留学プログラムの可能性を議論する。

日時 2024年3月18日 (月) 午後4時～午後6時 (日本時間)

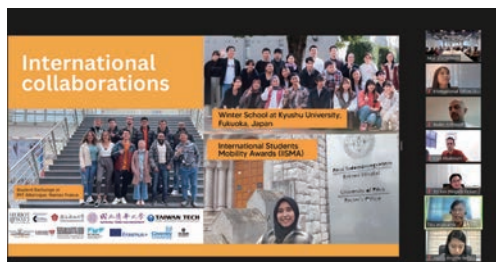
会場 オンラインまたは九州大学大橋キャンパスデザインコモン2階

言語 英語

参加者 芸術工学部および芸術工学府を卒業した同窓留学生16名、芸工教員5名、在籍学部生・大学院生14名



▲ 会場参加者



▲ online参加者



▲ 開催挨拶



▲ 国際プログラムのプレゼンテーション



▲ Geiko International Reunion
のポスター

4 国際化への取り組み：大学改革活性化制度 「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講

4.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要

令和4年度大学改革活性化制度「日本デザインを創造し、国際発信できる人材育成のための教育プログラムの構築」の改革計画は、実施体制とノウハウを含め、2020年度から開講した「デザインと日本」の展開拡充の延長線上にある。2022年度から2023年度にかけて大学院改組のカリキュラムに組み込まれている実践的な授業「デザインと日本A、B、C」の3科目を開講した。日本デザイン教育プログラムの実施により、日本人学生及び留学生が、日本の伝統から現代までの美意識に関する理解を深め、そこで得た知識や姿勢をもとに、将来的に革新的なデザインやアートを創造し、さらにその普及と発展を担うキュレーションや国際情報発信ができるポテンシャルを育成する。

4.2 デザインと日本/日本デザインの理解A (2023年度前期)

授業概要

大学改革活性化制度の事業計画に先立ち、2020年度に芸術工学部・芸術工学府において「デザインと日本」と題して日本デザインに取り組む授業を開講した。この授業は、芸工インターナショナルオフィスが企画から運営までを担い、ハイブリッド授業のノウハウを蓄積し、他の国際的プロジェクトや授業への応用なども試みている。今年度は写真、パブリックデザイン、サブカルチャーとメディア、ランドスケープデザインなど、さまざまな専門分野の教員が、それぞれの立場から日本のデザインを紹介する講義が行われた。



▲ 講義

期間	前期
担当教員	助教 下村 萌
使用言語	英語
履修者	55名(留学生44名)
参加国	12カ国及び地域(日本、米国、中国、フランス、ドイツ、グアテマラ、インドネシア、イタリア、ミャンマー、シンガポール、台湾、ベネズエラ)

講義内容

文化的翻訳と日本らしさ	准教授	結城 円
写真と日本	准教授	結城 円
日本のサブカルチャーとメディア	准教授	冬野 美晴
シリアスゲームデザイン	准教授	松隈 浩之
エクスカーション：日本の伝統工芸と文化	助教	下村 萌
行政へのデザインの関わり方	准教授	曾我部 春香
日本のランドスケープデザイン	准教授	高取 千佳
拡張表現	准教授	石井 達郎
音響デザインの現状	教授	高田 正幸

4.3 デザインと日本/日本デザインの理解B (2023年冬学期)

授業概要

この科目は、日本のアートとデザインについて、エクサカーションを含む講義とワークショップ形式で実施した。内容は、音、音楽、香りに焦点を当て、伝統的および現代的なデザインとアートの実践について考察した。履修生たちはこれらの実践に参加し、「儚さ」というテーマを探求し、様々な媒体やメディアを通してその意味を解釈し、独自のデザイン/アート/音楽作品を制作した。これらの作品は、2024年1月28日にデザインコモン2階で一般公開された最終発表イベント「Nagare, The Subtle Art of Dying」にて、匂いや手触りなど様々な感覚を通して紹介された。

期間 冬学期

担当教員 助教 Jamieson Daryl

使用言語 英語

履修者 24名 (全て留学生)

参加国 8カ国 (米国、中国、フランス、ドイツ、グアテマラ、イラン、オランダ、台湾)

講義内容

香りの現象学

准教授 Marinucci Lorenzo

エクサカーション: 伝統的な線香制作

助教 Jamieson Daryl、准教授 Marinucci Lorenzo

音と構成

助教 Jamieson Daryl

グループワーク1-3

助教 Jamieson Daryl



▲ グラフィック・スコア制作



▲ 伝統的な線香制作ワークショップ



▲ 線香制作



▲ 展示会の様子



▲ 展示会ポスター

4.4 デザインと日本/日本デザインの理解C（2023年秋学期）

授業概要

キュレーションは、今日、展覧会のオーガナイズだけに限定されるものではない。学際的かつトランスカルチュラルな文脈の中で、異なる知のあり方をまとめ、アートと社会の関係、そして美術館や博物館、アートコレクションが築かれてきた前提に挑戦することにも関係している。この授業では、日本のアートとデザインの基礎知識、展覧会の歴史、キュレーターの実務の基礎を取り扱った。理論と歴史、展覧会のフィールドワーク、キュレーターやアートとデザインに関連する他の専門家とのディスカッションにより、学生は理論的な考察と創造的な作業、キュレーションの実践的な方法を学んだ。最終的な成果として、九州大学博物館で展覧会やインスタレーションのためのコンセプトを制作し、2024年3月に展覧会を開催した。

期間	秋学期
担当教員	准教授 結城 円、講師 Beyn Ariane
使用言語	英語
履修者	4名
参加国	4カ国（日本、エクアドル、ドイツ、イラン）

講義内容

グローバルな文脈における日本のアートとデザイン

キュレーション実践のキーコンセプト

エクスカージョン：太宰府天満宮境内美術館

エクスカージョン：山口情報芸術センターYCAM

九州大学総合研究博物館でのセッション、視察とコレクション見学

九州大学総合研究博物館でキュレーションコンセプトの発表とディスカッション



▲ 九州大学総合研究博物館訪問



▲ YCAM



▲ 最終プレゼンテーション



▲ 展示会「Objects Stand Still - Ideas Don't」の様子

4.5 レクチャー・シリーズとイベント

2022年度から続くこの国際的なレクチャー・シリーズは、アーティストとの直接の出会いや対話を通して、現代アートの最先端を紹介するものである。様々な分野のアーティストが、九州大学の学生、教員、その他のコミュニティのメンバー、そしてアートに関心のある福岡の一般市民を対象に、自身の作品について紹介し、議論している。このシリーズでは、国際的に活躍する多様なアーティストの立場や、社会における現代アートの役割、またデザイン、人文科学、科学、工学といった他の研究分野とアートの潜在的な関連性について理解を深めることができる。このレクチャーは、未来共生デザイン部門、音響設計部門、メディアデザイン部門の教員が共同で開催している。大学改革活性化制度「デザインと日本」シリーズ、大学改革活性化制度「メディアアートによる科学・技術の芸術表現への昇華を通じた価値の可視化プロジェクト」シリーズの助成を受けている。

レクチャー・シリーズ

2023年4月22日: 写真家小島康敬氏のアーティストトークとワークショップ

2023年5月13日: ビジュアル/サウンド・アーティストPaul DeMarinis氏のパフォーマンスとトークイベント

2023年5月22日: ビジュアル・アーティストAntonia Hirsch氏とのワークショップ

2023年6月9日: ミュージシャン/映像作家Hsu Chia-Wei氏のスクリーンニングとトークイベント

2023年10月19日: ミュージシャン/アーティストAugustin Maurs氏のコンサートとトークイベント

2023年10月30日: アーティストNina Canell氏のトークイベント

2024年1月29日: アーティスト花田智浩氏とのワークショップ

2024年2月8日: ビジュアル・アーティスト百瀬文氏の上映会とトークイベント

2024年3月2日: サウンド・アーティストSusan Philipsz氏のトークイベント

イベント

2023年9月29日、福岡市美術館ミュージアムホールにて、結城円准教授とJamieson Daryl助教によるコンサート&レクチャーイベントが開催された。このイベントは、近現代の欧米や日本の美術作品のなかで、「生に終わりがあること」「生の儚さ、うつろいやすさ」の観念がどのように表現されているかを、17世紀オランダの「ヴァニタス」絵画の定型表現や、疾病の流行から生まれた「死の舞踏」などを手掛かりに明らかにする。Jamieson Daryl 助教は作曲とコンサートの演出を担当し、ドイツ、ブラウンシュヴァイク芸術大学のVictoria von Flemming 教授を招待し解説を行っていただいた。

このイベントは大学改革活性化制度「デザインと日本」シリーズと活性化プロジェクト20H01206の助成を受けている。



▲ 外部講師講義

5 国際教育イニシアティブ

5.1 産学連携国際演習科目:

スタジオプロジェクトII-A (SORAコミュニティデザインプロジェクト)

目的

水素バスについての認知を広め、乗客が将来のエネルギーや電力、地球環境について考えるきっかけをデザインすること



▲ 水素バス

概要

2023年9月に九州大学線で運行を開始したトヨタ自動車の水素バス「SORA」のラッピングとサイエンスコミュニケーションをデザインする産学連携プロジェクト。留学生と日本人学生の合同学生チーム、九州電力株式会社、昭和自動車株式会社、水素ステーションで実証事業を行う工学部立川研究室と共に、文化や解釈の多様性を交えて新たな燃料電池バスのデザインを提示した。

期間 夏学期

単位数 2単位

担当教員 准教授 池田 美奈子、助教 工藤 真生、助教 下村 萌

使用言語 英語

履修者 8名 (うち留学生6名)

参加国 3カ国 (日本、中国、イタリア)



▲ 水素バス



▲ プレゼンテーション



▲ アイディエーション



▲ 水素バス内部

5.2 国際演習科目: スタジオプロジェクトIII-A (Inter-Cultural Dialogue 2023)



▲ Geiko Fun Festival

目的

日本人と留学生が友達になるためのデザインを実践すること

科目概要

留学生は言語や文化の違い、出会いのきっかけが少ないなどの理由から日本人と友達になることに難しさを感じている。そこで、学生は日本人と留学生が楽しみながら交流できるイベントを開催し、学内の多様な留学生の文化について知り、その後の交流につながる場をデザインした。

授業は英語と日本語を柔軟に混ぜながらディスカッションとプロトタイピングを繰り返し、おにぎりを作る体験ワークショップ、学内留学生の出身国のトリビアクイズ、遊びながら外国の文化を知るオリジナルアクションゲームなど5つのチームに分かれてコンテンツを制作した。2023年11月16日(木)にこれらのコンテンツを体験できるGeiko Fun Festivalを開催。当日は学内外から約50名が参加し、あちこちで初対面の参加者間で自然な会話や笑い声が溢れる楽しい交流が生まれた。

期間 秋学期

単位数 2単位

担当教員 助教 下村 萌

使用言語 英語・日本語

履修者 18名(うち留学生14名)

参加国 5カ国(日本、中国、ドイツ、ベネズエラ、チュニジア)



▲ ゲームの様子



▲ 集合写真



▲ おにぎりワークショップ



▲ オリジナルアクションゲーム

5.3 COIL (Collaborative Online International Learning): INTAC (International Art Collaborations Network)

目的

ICT (情報通信技術) を活用した国際的なコラボレーションによる作品制作を目指す、世界4カ国の4大学との共同授業である。4大学とは、ヨーロッパ応用科学大学 (ドイツ)、オンタリオ・カレッジ・オブ・アート&デザイン (OCAD) 大学 (カナダ)、タンペレ応用科学大学 (フィンランド)、メキシコ州立自治大学 (メキシコ)。この授業では、海外の大学の教授から指導を受け、フィードバックを受けることができる。また、コミュニケーションや国際交流のために英語を使うこともできる。

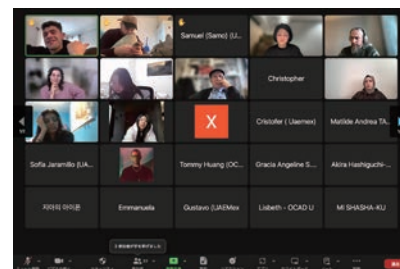
授業概要

学生たちは「Ebb+Flow」というテーマのもと、異なる大学の学生で小グループを作り、作品を制作した。コミュニケーションにはZoom、Teams、Miro (オンラインホワイトボードツール)、Slack、Instagram、Google翻訳など様々なICT (情報通信技術) ツールを使用。最終的な成果は、大橋キャンパスで開催された展示会「Ebb+Flow」で発表された。各大学の教授と学生が展示会の準備と設営に携わった。これにより、学生たちは展示実習を実地体験することができた。展示会は2024年3月14日から22日まで、1号館のデザインライブラリー&ギャラリーで開催され、14日にはオープニングイベントと以下の6名の教員によるパネルディスカッションが行われた。

教授	Walter Bergmoser
助教	Meera Margaret Singh
名誉教授	Peter Sramek
主任講師	Juha Suonpää
教授	Sofia Sienna
准教授	結城 円

期間	秋学期
単位数	1
担当教員	准教授 結城 円
使用言語	英語
履修者数 (芸工)	8名

スーパーグローバル大学創成支援 (SHARE-Q) 「提案型事業枠」の助成のもと実施



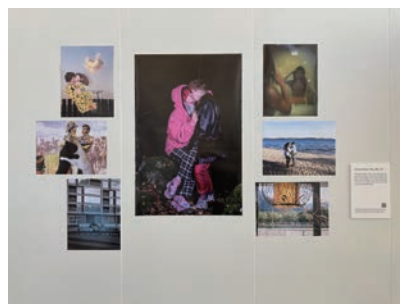
▲ Zoomでのオンライン講義



▲ INTACのポスター



▲ 展示会セットアップの様子



▲ 展示会の様子

5.4 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One

目的

ELEPは学生の英語能力、イノベーション/グローバル能力を高め、さらに高度な社会において活躍できる新たな力を身につけることを目的としたプログラムである。

概要

このプログラムは芸術工学研究院と工学研究院が共同で実施するもので、芸術工学部・学府および工学部・学府の学生を対象に開講した。ハイブリッドで行われた6週間のアントレプレナーシッププログラムの内容は以下の通りである。

- ・ 米国カリフォルニア州のサンノゼ州立大学によるオンライン英語研修
- ・ 同大学学生とのオンラインおよび対面による個人的な交流
- ・ シリコンバレーの有名企業や大学へのフィールドトリップ
- ・ シリコンバレー現地で活躍されている起業家やベンチャーキャピタルによる講演
- ・ Zero to Oneプロジェクトにてデザイン思考法によるビジネス創出のプロセス経験

学生は今年のZero to Oneのテーマであるグローバルマーケットを意識し、最新テクノロジーと掛け合わせて日本の良さを世界に売り込むアイデアをデザインした。

期間 2024年2月14日～3月28日

担当教員 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 張 彦芳、助教 下村 萌
九州大学大学院工学研究院 教授 寺西 亮
九州大学シリコンバレー 客員教授 松坂 秀二郎

履修者 27名



▲ ELEPオンライン講義



▲ アメリカでのELEP開催の様子

6 海外パートナーの開拓

6.1 ダブル・ディグリープログラム締結

ダブル・ディグリープログラムは、九州大学に在籍しながら協定校へ留学し、指定のカリキュラムを修了すると、両大学の学位が取得できる学位プログラムである。九州大学大学院芸術工学府では、台湾国立成功大学計画デザイン学大学院とダブル・ディグリーの協定を結び、2024年3月14日に成功大学にて尾本研究院長が協定書に調印した。

ダブル・ディグリープログラムに参加する学生は、九州大学と台湾国立成功大学の2大学の指導教員をはじめとする複数の教員から多角的・多面的な指導を受けることが可能となり、高度な知識と技術の習得のみならず、幅広い視野を身に付けることができる。また、グローバルに活躍するために必要な英語力の向上も見込まれる。さらに異なる国や地域で学ぶことにより、国際的に活躍する上で重要なチャレンジ精神や異文化総合理解力を磨くことができる。進化・拡大し続けるデザイン専門領域に対応した国際社会で広く活躍できる「国際的なデザイナー」の育成を目指す。



▲ ダブル・ディグリープログラム



▲ 国立成功大学での調印式



▲ キャンパスツアー



▲ 集合写真



▲ 懇親会を兼ねたランチ

6.2 海外大学関係者の表敬訪問対応

日付	大学名	国・地域
2023年4月4日	ニューサウスウェールズ大学 (UNSW)	オーストラリア
2023年4月20日	アールト大学	フィンランド
2023年6月16日	国立成功大学	台湾
2023年6月19日	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、インペリアル・カレッジ・ロンドン	英国
2023年7月24日	アールト大学	フィンランド
2023年7月27日	北京理工大学	中国
2023年8月16日	国立建築都市大学 (ENAU)	チュニジア
2023年9月19日	ポツダム応用科学大学	ドイツ
2023年9月20日	カイザースラウテルン工科大学	ドイツ
2023年9月27、28日	ノルウェー科学技術大学	ノルウェー
2023年10月20日	国立台湾師範大学	台湾
2023年10月20日	ソウル大学校	韓国
2023年10月26日	HAN応用科学大学	オランダ
2023年10月28～30日	大連理工大学	中国
2023年10月31日	ブラウイジャヤ大学	インドネシア
2023年12月25日	RMIT大学	オーストラリア
2024年2月19～22日	エストニア芸術アカデミー	エストニア
2024年2月22日	パリ・ラ・ヴィレット建築大学	フランス
2024年3月12日	ヨーロッパ応用科学大学 オンタリオ・カレッジ・オブ・アート&デザイン(OCAD)大学 メキシコ州立自治大学	ドイツ カナダ メキシコ



▲ 国立台湾師範大学からの表敬訪問



▲ ノルウェー科学技術大学からの表敬訪問

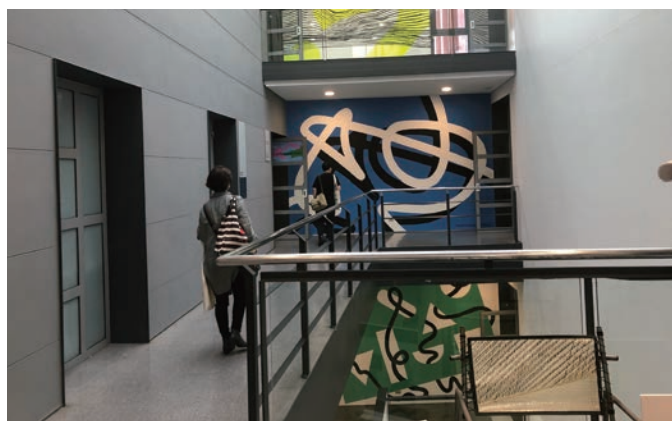
6.3 海外大学への訪問

目的

- ・ 学術・学生交流の新規パートナー開拓
- ・ 既存協定校との関係維持と新規連携への発展

訪問大学

日時	大学	国	教員
2023年9月5日～8日	ELISAVA	スペイン	助教 下村 萌
	カタルーニャ高等建築大学院大学 (IAAC)		
	ファブラボバルセロナ		
2024年1月3日～22日	ヨーロッパ応用科学大学	ドイツ	准教授 結城 円
	フォルクヴァング芸術大学		
	デュースブルク・エッセン大学		
	ケルン応用科学大学		
	フンボルト大学ベルリン		
	アンハルト応用科学大学		
	ダルムシュタット科学技術大学		
	カールスルーエ造形大学		
ポツダム応用科学大学			



▲ ELISAVA



▲ IAAC, ファブラボバルセロナ 訪問



▲ アンハルト応用科学大学



▲ ダルムシュタット科学技術大学



▲ カールスルーエ造形大学



▲ ベルリン・フンボルト大学

6.4 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート

芸工インターナショナルオフィスでは、総務課研究支援係と連携しErasmus+プログラムを含む国際学術・学生交流協定の手続きを支援した。

令和5年度(1月25日時点)の部局間交流協定数:43校

令和5年度協定変更状況:

	進捗状況	大学名	国名
新規締結	締結済10件	ラップランド大学	フィンランド
		エストニア芸術アカデミー (Erasmus+)	エストニア
		ラフバラー大学	英国
		HAN応用科学大学	オランダ
		アンハルト応用科学大学 (Erasmus+)	ドイツ
		ノースサウス大学	バングラデシュ
		東華大学	中国
		河南工業大学	中国
		カセサート大学	タイ
		シラパコーン大学	タイ
	予定8件	ニューサウスウェールズ大学 (UNSW)	オーストラリア
		アデレード大学理工学部	オーストラリア
		インド工科大学ハイデラバード校	インド
		ジャダフプール大学	インド
		カンボジア工科大学	カンボジア
		チッタゴン工科大学	バングラデシュ
		ポツダム応用科学大学	ドイツ
		国立台湾師範大学	台湾
協定更新	更新済1件	ダルムシュタット科学技術大学 (Erasmus+)	ドイツ
追補		ヘント大学 ※心理学・教育科学部	ベルギー

7 国際広報活動の充実

芸術工学部局の様々な活動の魅力を積極的に発信する。海外関係者や入学希望者と情報交換しながら良好な関係を築き、信頼されるコミュニティづくりを目指す。

7.1 国際広報

ウェブサイト

- ・ 留学生リクルートのため学生目線で芸工内での出来事や興味を引く記事を書ける学生ライターを育成。記事は芸術工学部公式ウェブサイトや Geiko Globalウェブサイト に日本語と英語で掲載した。これまでに掲載した記事は47本にのぼる。
- ・ 科目や各種イベントの記事執筆と芸術工学部公式ウェブサイトへの投稿(日英)

SNS

- ・ 九州大学公式SNS (Facebook、X(旧・Twitter)) への日英記事投稿
- ・ 芸工インターナショナルオフィスSNS (Facebook、Instagram) による英語での情報発信
- ・ より目を引き、かつ十分な情報を伝えることのできるデザインの投稿用画像の作成
- ・ SNS広告実績

キャンペーン	媒体	インプレッション数(回)
博士課程大学院入試情報(秋学期入学)	Facebook	60,428

動画

芸術工学インターナショナル・ウインタースクールの記録動画を2本制作し、芸術工学部の公式YouTubeチャンネルと芸工インターナショナルオフィスのInstagramで公開した。



▲ 学生ライター記事



▲ Instagram



▲ Facebook



▲ 芸術工学部 YouTube



▲ SNS広告画像

その他の成果物

- ・ 芸術工学インターナショナル・ウインタースクールのビジュアルアイデンティティ制作
- ・ Geiko International Reunionのビジュアルアイデンティティ制作
- ・ 「デザインと日本」シリーズのビジュアルアイデンティティ制作、webページデザイン

7.2 部局活動の海外発信

- ・ 芸術工学部国際ネットワーク（海外大学関係者）メーリングリスト更新
- ・ 芸術工学部ファクトシートのデザインと海外提携校への配布
- ・ 年間活動報告書のオンライン配布

7.3 留学生リクルート

日付	イベント名	参加人数
2023年4月16日	第1回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体75名（分科会13名）
2023年10月14日	北海道大学主催 令和5年度オンライン日本留学フェア (対象地域：サブサハラ・アフリカ)	34
2023年10月17日	J-MENA Office主催 Study in Japan Fair (中東、北アフリカ地域対象)	13
2023年12月15日	第2回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体82名（分科会9名）



▲ 第1回九州大学大学院オンライン留学フェア



▲ J-MENA Study in Japan Fair



▲ 第2回九州大学大学院オンライン留学フェア

8 国際連携プロジェクト支援

国際連携教育（海外大学との共同授業、ワークショップ、サマースクール、オンラインイベント等）により、派遣提携先の開拓や留学生リクルーティングへと結びつく継続的な取り組みに対する支援

8.1 国際連携教育支援事業

目的

部局の目標の一つである「教育の国際化」を実現するため、教育の向上と国際的に活躍できる人材育成を実現する取り組みを支援した。

*公募申請等各種手続きは学務課学生係が担当した。

採択プロジェクト

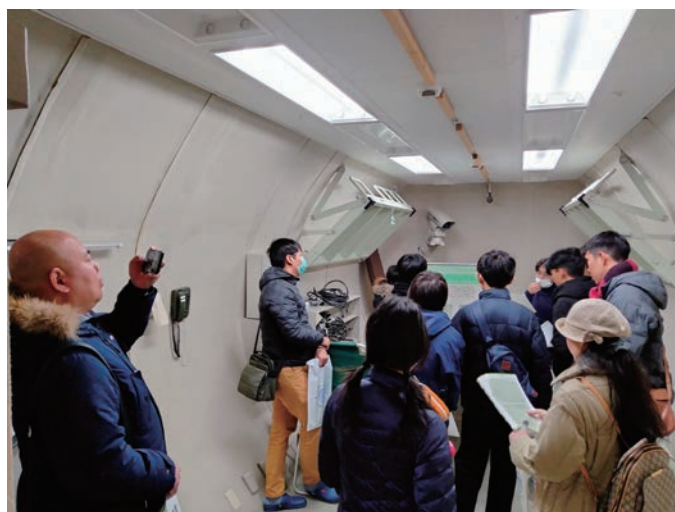
- Strategic Service Design Lecture Series for Master's Level
教授 Sarantou Melanie
- Short Collaborative Design Workshop @NTNU, Taiwan
助教 Loh Wei Leong

8.2 その他サポート

- グローバル・デザイン・プロジェクト：アールト大学との共同オンライン授業（促進）
- SDGs国際ナショナル・デザイン・アワード2023（英訳、情報発信支援）
- 環境設計グローバル・ハブさくらサイエンス招へい短期プログラム（キャンパスツアー対応）
- 九州大学アジア・オセアニア研究教育機構さくらサイエンス招へい短期プログラム（キャンパスツアー対応）



▲ 環境設計グローバル・ハブのキャンパスツアー



▲ 九州大学アジア・オセアニア研究教育機構のキャンパスツアー

9 様式の英語化

目的

事務部が担う文書の英訳や英文校正を行い、留学生や研究者、また今後入学が見込まれる海外の学生のために芸工の情報を英語で提供する。

実施内容

学務課：校正2件（学部生・大学院生便覧）、英訳1件（学年暦）

総務課：校正2件（キャンパス案内、芸術工学部公式ウェブサイト卒業生の声）

10 各種予算申請

国際関係の様々な外部資金申請や申請手続きのサポート

- ・ スーパーグローバル大学創成支援 (SHARE-Q) 「提案型事業枠」学部・大学院 (960,000円)
- ・ JSTさくらサイエンスプログラム「芸術工学インターナショナル・ウインタースクール」(受入) (2,953,060円)
- ・ JASSO海外留学支援制度「芸術工学インターナショナル・ウインタースクール」(受入) (240,000円)
- ・ JASSO海外留学支援制度「世界的高度デザイン系人材を育成する芸術工学部国際プログラム」(派遣) (4,080,000円)
- ・ 文部科学省「国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム」不採択

11 その他の活動

- ・ 広報用芸工紹介スライドの更新
- ・ Geiko Globalウェブサイトの再開発、運営・更新
- ・ オンライン交換留学申請システムの再開発、運営・更新
- ・ 国際部との情報共有
- ・ 部局国際推進室合同ミーティングへの参加 (年4回)
- ・ 広報戦略推進室会議への参加
- ・ 部局国際推進室訪問対応 (2023年7月13日)